

発掘調査の概要

藤原京右京八条二・三坊の調査(飛鳥藤原第185-7次)

今回の調査地は、藤原京右京八条二坊の西辺にあたり、本薬師寺の寺域に隣接します。西二坊大路および八条条間路の存在が予想され、東側溝と西側溝が推定される2箇所調査区を設けました。

調査の結果、7世紀後半から藤原宮期の遺構として、西二坊大路の東西両側溝と八条条間路の南側溝を検出しました。西二坊大路東側溝と八条条間路南側溝は逆L字状に接続していました。

また、西二坊大路の路面整地土下層の遺構として、東区では調査区を縦断する南北溝を、西区では調査区を横断する斜行溝を検出しました。東区の下層南北溝は西二坊大路東側溝のわずかに西側を並走していました。西区の下層斜行溝は、幅約2.7～3.7m、深さ約0.6～0.9mで、西二坊大路西側溝はこの溝を埋め立て、路面側、寺域側の両方を整地した後に、掘り込まれていました。

今回の調査により、当地における西二坊大路の施工過程があきらかになり、本薬師寺および藤原京造営の過程を考える上で、新たな知見を得ることができました。
(都城発掘調査部 大澤 正吾)



東側溝と南側溝、下層南
北溝(東区、北西から)



西側溝(西区、北から)



発掘調査区全景(北から、右側が本薬師寺)